

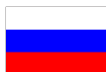
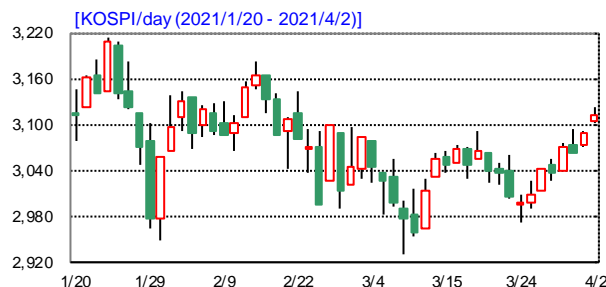


【韓国】 総合指数は週間で2.4%高と続伸、今週は3100ポイントで値固めか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.4%高と続伸。新型コロナウイルスのワクチン接種が進展すれば世界経済が持ち直すとの見方を背景に週を通じて下値を次第に切り上げる展開となった。週明け3月29日に3日ぶりに反落した後、30日は反発、31日は反落と、週前半は米金利の上昇を警戒する売りが上値を抑える場面があった。ただ、4月1日からは連騰。バイデン米大統領が発表したインフラ投資計画や韓国の輸出（3月）の2桁増などが投資家心理を支えた。4月2日の終値は3100ポイントを超え、2月17日以来1カ月半ぶりの高値で週を終えた。今週は心理的節目の3100ポイント付近で値固めか。米金利の上昇が一服すれば買い安心感につながる。半面、米国と中国の政治的な対立の先鋭化がリスク要因として意識されそうだ。

▼指数チャート

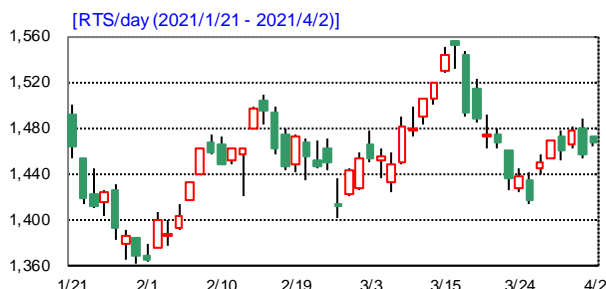


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.2%高と3週ぶり反発、今週は原油相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.2%高と3週ぶりに反発。欧米諸国による対ロシア経済制裁が懸念されたものの、欧米株や原油相場の上昇が支援となった。週明け29日は前週末比1.3%高と続伸。前週末までの続落で押し目買いが強まる中、欧米株高や堅調な原油相場が追い風となった。ただ、その後は上下を繰り返す一進一退の展開。2日は原油相場の先高観が株式市場の支えとなり、反発して週の取引を終えた。個別では、住宅のPIKグループが14.1%高、金融のVTB銀行が11.7%高となったほか、資源のルサルが7.5%、ノリリスク・ニッケルが7.4%、エネルギーのスルグトネフテガスが5.1%上昇。一方、エネルギーのルクオイルが2.8%安、ロスネフチが2.7%安、ノバテックが2.2%安と下落した。今週は原油相場が焦点か。

▼指数チャート

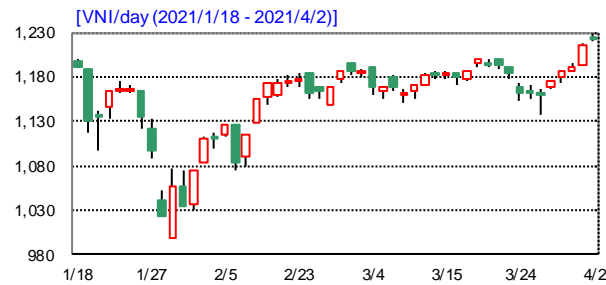


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で5.4%高と反発 今週は上昇モメンタム継続か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で5.4%高と大幅に反発。国内勢の買いに加え、海外勢が買いに転じたことで2年ぶりに過去最高値を更新した。指数は29日に前営業日比1.2%高。海外投資家の売りは続いたが、国内勢の買いで主力優良株がほぼ全面高となった。指数はその後にも上向き、海外勢が買いに転じた1日は2.1%高の1216.10ポイントで引け、過去最高値を更新した。2日も続伸し、連日の最高値となった。個別では食品のマサン・グループが7.9%、軍隊商業銀行が7.6%、ベトナム投資開発銀行が6.9%、ベトインバンクが5.8%、鉄鋼のホア・ファット・グループが6.2%上昇。飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が4.0%高、ゴム製品のベトナム・ラバー・グループ3.7%高となり、指数を押し上げた。今週も上昇モメンタムが続くか。

▼指数チャート



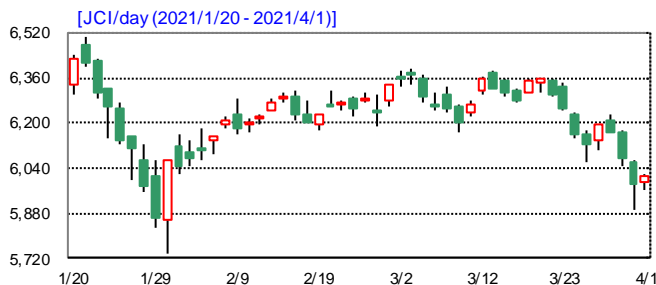


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.0%安、米ドル高ルピア安を嫌気

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で3.0%安と3週続落。3月月間では4.1%安。先週は買い材料に乏しく、軟調な値動きが続いた。週初の29日は金融株が下げを主導し、指数は反落。30日は米長期金利の上昇を受けて米ドル高ルピア安が進んだ影響で前日比1.5%安と続落し、31日はさらに1.4%安と終値で約2カ月ぶりに6000ポイントを割った。ただ、1日は前日までの反動で4日ぶりに反発して連休前の取引を終えている。同日に発表された3月のCPI上昇率は前年同月比1.4%とほぼ市場の予想通りだった。今週は前週末に発表された3月の米雇用統計が強い内容だったことが株式相場の追い風か。

▼指数チャート

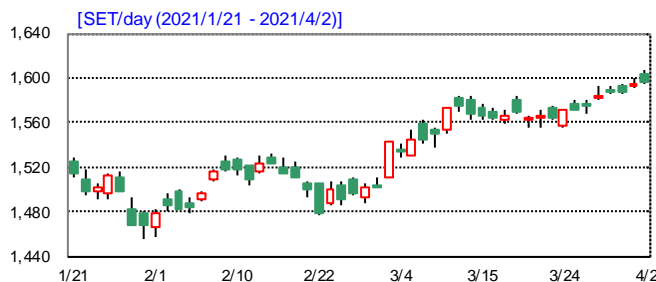


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%高、原油価格上昇を好感

SET 指数は週間で1.4%高と続伸。3月月間では6.0%高。先週は週後半の場中に一時、1600ポイント台に到達した。週初の29日は原油価格の上昇でエネルギー株が買われ、指数は4営業日続伸。30日も上値を広げたが、31日は2月の鉱工業生産が市場予想から下振れした影響で小幅に反落した。ただ、1日に買い戻されると、2日は前日に開催されたOPECプラスの会合で協調減産の段階的な縮小が決まったものの、原油需要の増加に対する期待感から先物価格が上昇した効果などで指数は続伸している。今週は5日発表の3月のCPIに対する市場の反応が焦点。6日はチャクラー王朝記念日のため休場となる。

▼指数チャート

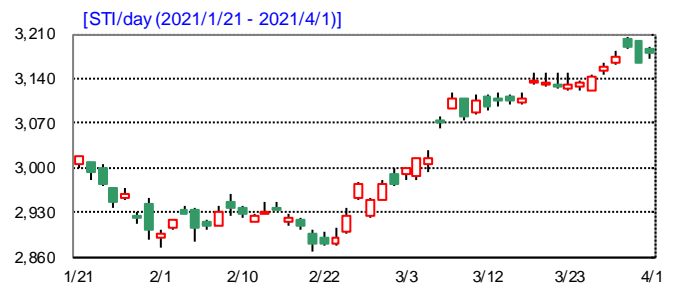


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%高、好地合いが続き6週続伸

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で0.8%高と6週続伸。3月月間では7.3%高。先週は好地合いが続く中、おおむね堅調に推移した。週初の29日は幅広い銘柄が買われて5営業日続伸。30日は前日のNYダウが過去最高値を更新した流れで買い優勢の展開が続いた。31日は7日ぶりに反落したが、1日は前日にバイデン米大統領が2兆米ドル規模のインフラ投資計画を発表したことが買い材料視され、反発して連休前の取引を終えている。今週は5日発表の2月の小売売上高と3月の製造業PMIに対する市場の反応が焦点。外部要因では7日に発表される3月の米FOMC議事要旨の内容が意識されそうだ。

▼指数チャート

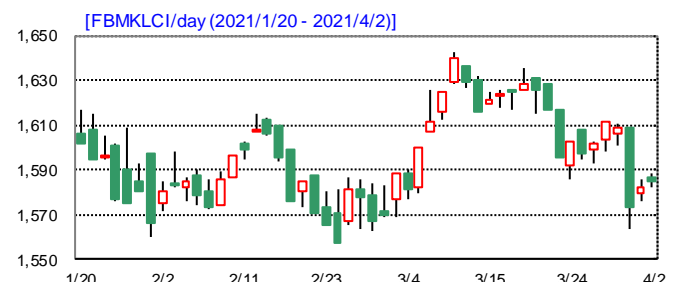


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0%安、米当局がトップ・グローブ製品の押収を指示

クアラルンプール総合指数は週間で1.0%安と続落。3月月間では0.3%安。先週は週半ばの下落が痛手だった。週初の29日は、2月の輸出額が前年同月比17.6%増と市場予想から上振れた効果で指数は続伸。ただ、30日は米税関・国境取締局(CBP)が強制労働を理由にトップ・グローブ製のゴム手袋の押収を全米の港湾に指示した影響で、同社株が指数下落を主導した。31日は米長期金利の上昇が売り材料視され、前日比2.2%安と続落。週後半は反動で買い戻されたが補えなかった。今週は9日に2月の鉱工業生産と小売売上高が発表される予定。内容次第で節目の1600ポイントを回復できるかが焦点になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。